令和８年度「少年の主張」上川地区大会実施要領

１　目　的

少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められている。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などと共に、物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力などを身に付けることが大切であることから、これらの契機となるよう、少年が社会に向けての意見、未来への希望などを発表する機会を設けるとともに、あわせて、少年の健全育成及び非行防止に対する道民の理解を深めることを目的とし開催する。

２　主　催

上川総合振興局

３　対　象

上川総合振興局管内の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にあるもの（以下「中学生」という）。

※ 国籍は問わないが、日本語で発表できること。

なお、作品は未発表、自作のものに限るので、生成ＡＩ等を利用して作文の原案を作成したり、自作の作文を推敲するなどということを行わないこと。

４　名称

令和８年度「少年の主張」上川地区大会

５　実施要領

上川総合振興局管内の中学生を対象に意見主張の場を設定する。

⑴ 実施方法

大会形式により実施する。

⑵ 募集

- 教育局の協力を得て、管内市町村教育委員会等を通じて、各中学校に対し、周知を図る。
- 各市町村単位、各学校単位で実施している主張大会、弁論大会等などにより募集する。

⑶ 発表内容

次のような内容で、心からの思い、考えたこと、感銘を受けたことなどを少年らしい自由でユニークに、飾り気のない言葉でまとめたもの。

- 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など
- 家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友だちとの関わりなど
- テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など

※ 生成ＡＩ等を利用して作文の原案を作成したり、自作の作文を推敲するなどということを行わないこと。

※ 商業的な固有名詞の使用は極力避けることとする（例えば、「○○にある○○旅館」を「○○にある旅館」に言い換えるなど）。

※ 紹介のために道具を取り入れることはできるが、審査で加点されることはないことに留意すること。

⑷　発表時間

５分程度（４００字詰原稿用紙４枚程度）

※ 全国大会の規定が、学校名、氏名、タイトル等の部分は除く「作文本文の出だし」から「作文本文の終わり」までで４分３０秒～５分３０秒となっているため、この範囲内に収めてください。

（5） 審査

- 関係機関等に、選考に係る審査員の推薦を依頼する。
- 審査により、順位付けし、最優秀者１名及び優秀者２名を決定する。

（6） 審査基準

ア 論旨

- 鋭い感性で、新鮮な主張であるか
- 自分の考えを自分自身の言葉で表現しているか
- 個人の体験に基づき、社会に訴える主張であるか
- 提案や提言を実践しようとする意欲が感じられるか
- 論旨が一貫していて分かりやすいか
- 内容に共感・感動できるか

イ 論調

- 共感と感銘を与えていたか
- 説得力のある話だったか
- 熱意と迫力があったか
- 落ち着いて話していたか
- 聴衆に感動を与えていたか

（7） 実施日時および場所

令和８年７月８日（水） １３：００～

北海道上川合同庁舎 ３階 講堂

（8） 表彰

最優秀者１名及び優秀者等に対して賞状等を授与する。

（9）推薦

最優秀者を全道大会参加者として、環境生活部に推薦する。最優秀者が参加できない場合は、次位の者を推薦する。

６ その他

- 主張発表者の原稿は４００字詰原稿用紙（Ａ４）縦書き４枚程度で、本人自筆による原本（障がい等による場合はワープロ可）とする。

※ 異なるサイズの場合、Ａ４サイズに書き直した原稿が必要となるため、留意すること。

- 応募された作品は、原則返却しないこととし、北海道に帰属するものとする。
- 原稿の書き出しについては次のとおりとする。

１行目	タイトル
２行目	北海道　学校　学年
３行目	氏　名
４行目	作　文